

三菱重工

長崎の香焼工場の大島造船に売却

三井E&Sの艦艇事業譲受

造船業界で再編が一步前進した。三菱重工は3月30日、長崎造船所香焼(こうやぎ)工場の新造船エリアを大島造船所に売却する契約を結んだと発表した(売却額は非公表)。今月から段階的に譲渡を開始し、2022年度に完了する予定。大

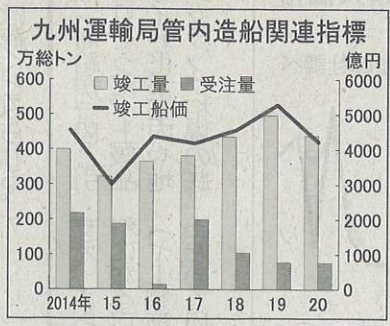
型タンカー(VLCC)やLNG運搬船の建造から撤退する。前日29日には三井E&S造船の艦艇・官公庁船事業の譲受で三井E&Sホールディングスと最終合意し、譲渡契約を締結したと発表。付加価値を高めることができ分野に経営資源を集

中する。造船業界では今年1月に今治造船とジャパソマリノユニテッドがLNG船を除く商船の設計・販売の合併会社を設立したほか、2月には佐世保重工業(SSK)が来年1月で新造船事業の休止を発表するなど再編が加

速。九州運輸局がまとめた資料によると20年の管内(九州7県と山口県西部)13社の造船竣工量は前年比11・7%減の439万7935総ト。現在の統計方式に変更した14年以降では18年から3年連続で400万総ト超の大台

を超えた。一方、受注量は14年の217万5490総トをピークに減少傾向が続く。16年には海運市況や船価の下落、エネルギー市場の低迷、環境規制前の受注増加の反動を受けて前年比

なつた。中国や韓国勢が規模を拡大する中、一部造船メーカーを除き受注は少なく、地区内の厚板をはじめとした造船向け鋼材を取り巻く環境は今後厳しさが増しそつた。



92・8%減の13万6100総トを記録。翌17年からは100万総ト超に回復したが、19年には再び100万総トを割り込み、20年は前年比1・1%減の76万7119総ト